

住宅地、商業地ともやや良好

石川県不動産DI調査公表

協建宅協・鑑定鑑

石川県不動産鑑定士協会と石川県宅地建物取引業協会は、不動産DI調査（石川県における土地価格と不動産取引動向に関する調査）を毎年2月、第1回目の調査結果を発表した。

それによると、住宅地は実感値はプラス0.5ポイントやや良好。予測値はマイナス0.2ポイント悪化

した。県央地区のプラス13.0ポイント、特に金沢市のプラス18.0ポイントが県全体のDIに影響を与えている。予測値は県央地区においてもマイナス2.1ポイント（金沢市はプラス2.1ポイント）となり、弱めの回答が多くみられた。

商業地の実感値はプラス23.6ポイントやや良好。予測値はマイナス2.3ポイント悪化した。県央地区

のプラス45.7ポイント、特に金沢市のプラス58.5ポイントが突出しており、県全体のDIを押し上げている。半年後もDIはプラスを維持している。北陸新幹線開業の影響は2年目である今年も継続していると分析。

県全体の不動産市場の動向は、土地・新築戸建は実感値はプラス3.9ポイントやや良好。予測値はプラス2.3ポイントやや悪化した。マンションの実感値はマイナス21.3ポイントと低調。予測値はマイナス13.7ポイントやや悪化

2団体は「不動産取引は大きな取引であるにもかかわらず、市場が分岐りにくい傾向にあることから、調査の公表で一般消費者にも身近なものに感じてほしい」とコメントしている。調査は北陸地域では新潟と富山で実施している。

中古住宅は、実感値はマイナス0.6ポイントやや低調。予測値はプラス1.9ポイントやや改善した。